マン・レイと女性たち

MAN RAY and the WOMEN

2022.7.2 sat.— 9.25 sun.

①　《眠る女（ソラリゼーション）》　1929 年　ゼラチン・シルバー・プリント（後刷）
個人蔵　Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

展覧会概要

20 世紀を代表する芸術家で、ダダ・シュルレアリストでもあったマン・レイ（1890-1976）。絵画、彫刻、オブジェや映画といった幅広いジャンルにおいて、知性とユーモアにあふれる作品を残しましたが、とくに写真の分野で卓抜な才能を発揮します。その多彩な作品の周辺には、恋人から女性アーティスト、女優、モデル、社交界の貴婦人たちなど、才能豊かな女性たちの存在がありました。20 世紀、めまぐるしく移り変わる激動の時代に、自分らしく自由に生きたミューズたちと、マン・レイは対等に向き合い、その個性と美しさを作品としました。本展ではそうした女性たちの写真をはじめとする約 260 点の作品とともに、マン・レイの世界をめぐります。

マン・レイ　とは？

1890 年 8 月 27 日、ウクライナとベラルーシからのユダヤ人移民夫婦の長男として、フィラデルフィアに生まれました。本名はエマニュエル・ラドニツキー。家族がユダヤ系とわかる姓を「レイ」に変えたとき、エマニュエルは名も変えて「マン・レイ」と名乗りました。

1913 年、アーモリー・ショー（国際現代美術展）を訪れ、おもにフランスの近代美術、アングル、デュシャン、ピカソといった作家たちの作品を目にして影響を受けます。ベルギー出身の詩人アドンと結婚。徴兵逃れでニューヨークに来たデュシャンとは出会って交友を結び、ともにダダ運動を推進したのち、パリへと旅立ちます。

パリでは、写真スタジオを設けて肖像写真、ファッション写真などで活躍する一方、レイヨグラフやソラリゼーションのような新手法を試み、独自の世界を築いていきました。

ニューヨーク、パリ、ハリウッド、そして再びパリへ。

愛、別れ、発見、冒険、遊び――。恋人から女性アーティスト、女優、モデル、社交界の貴婦人たちまで、自由に生きたミューズたちとの交流によって、マン・レイの生涯が浮かび上がります。

②　《カメラをもつセルフポートレート（ソラリゼーション）》　1932～35 年頃
ゼラチン・シルバー・プリント（ヴィンテージ）　個人蔵
© Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

Man Ray's Films

③ 《マン・レイの映画「理性への回帰」のスチル写真》 1923 年
ゼラチン・シルバー・プリント（後刷） 個人蔵 Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

Man Ray's Artworks

④ 《永続するモティーフ》 1923/71 年 木製メトロノーム、目の写真 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

⑤ 《ペシャージュ（桃・雲・風景）》1969/72 年 木製箱、人工の桃 3 個、綿、塗料 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

⑥ 《手（レイヨグラフ）》 1927 年 ゼラチン・シルバー・プリント（後刷） 個人蔵 Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

展示構成

マン･レイの生涯を 4 つの時代に分け､20 世紀のさまざまな芸術潮流やファッションを追いかけながら、その時々に登場する「女性たち」に焦点を当ててゆきます

第 Ⅰ 章　ニューヨーク New York 1890－1921

Ⅰ-1 セルフポートレート　Self-Portraits
Ⅰ-2 ダダ時代の作品　Works from the Dada Period

第 Ⅱ 章　パリ Paris 1921－1940

Ⅱ-3 ダダ・シュルレアリスム　Dada and Surrealism
Ⅱ-4 シュルレアリストたちの肖像　Portraits of the Surrealists
Ⅱ-5 キキ・ド・モンパルナス　Kiki de Montparnasse
Ⅱ-6 リー・ミラー　Lee Miller
Ⅱ-7 社交界・芸術界・モンパルナス　Parisien Society and the Artistic Circles of Montparnasse
Ⅱ-8 ファッションと写真　Fashion and Photography
Ⅱ-9 裸体からマネキン人形まで　From Nudes to Mannequins
Ⅱ-10 女性たちとシュルレアリスム　Women and Surrealism
Ⅱ-11 マン・レイの「自由な手」　Man Ray's "Free Hands"
Ⅱ-12 アディ・フィドラン　Ady Fidelin

第 Ⅲ 章　ハリウッド Hollywood 1940－1951

Ⅲ-13 ジュリエット・ブラウナー　Juliet Browner
Ⅲ-14 アートの新天地　A New World for Man Ray's Art

第 Ⅳ 章　パリふたたび Returning to Paris 1951－1976

Ⅳ-15 アートのなかの女性像　The Female Figures in His Artwork
Ⅳ-16 新しいジュエリーとモード　Novel Jewelry and Fashion Design
Ⅳ-17 マン・レイとは誰だったか？　A Look Back : Who Was Man Ray?

オーディオガイドのご案内　貸出料金：1 台 750 円（税込）

本展監修者・巖谷國士による短篇小説のように編まれたマン・レイの生涯を、劇団唐組の名優・久保井研と藤井由紀が朗読する、目と耳とで愉しむスマホ型オーディオガイド

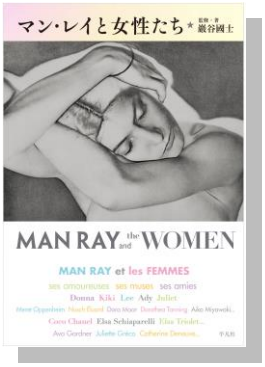
久保井研

藤井由紀

図録のご案内　定価：2,750 円（税込）平凡社

愛、別れ、発見、冒険、遊び――。
20 世紀を代表する万能の芸術家マン・レイ（1890-1976）。恋人から女性アーティスト、女優、モデル、社交界の貴婦人たちまで、自由に生きたミューズたちとの交流から浮かびあがる天才マン・レイの生涯、20 世紀アートの豊かな世界。

☆詳細な「人名解説と索引」、映画紹介、パリの地図付き



見どころ

●ミューズとなった「女性たち」

キキ・ド・モンパルナス（1901-53）　キスリングや藤田嗣治など、モンパルナスの画家たちの人気者でしたが、マン・レイとは 1921 年にカフェで出会い、恋に落ち、ミューズになりました。写真のモデルだけでなく、映画にも出演。自由で陽気なキキは、歌い、踊り、本を書き、絵も描きましたが、モデルこそが天職でした。

《アングルのヴァイオリン》:キキの背中をヴァイオリンに見立てたこの作品は、マン・レイが 1924 年に撮影した写真史上の名作に数えられます。先頃、ニューヨークのオークションで、本作オリジナルが、写真作品においては最高値となる評価額で競り落とされました。

⑦　《アングルのヴァイオリン》　1924 年
ゼラチン・シルバー・プリント（後刷）　個人蔵
Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

リー・ミラー（1907-77）　ニューヨーク近郊の出身で、すでにモデルでしたが、独立心が強く、写真家になる決意でパリに来て、1929 年夏に当代一の写真家を訪ねました。「リー・ミラーといい、あなたの助手になりたい」と。キキと別れて孤独だったマン・レイにとって、リーは助手以上の存在になりました。

⑧　《リー・ミラー（ソラリゼーション）》　1929 年頃　ゼラチン・シルバー・プリント（後刷）
個人蔵　Courtesy Telimage, Photothèque Man Ray, Paris

アディ（1915-2004）　1934 年末、マン・レイは魅力的なダンサーと出会います。カリブ海のグアドループ島の出身で、「カフェ・オ・レ色の肌」をもつこの若い女性と愛しあい、5 年ほどともに暮らしました。明るく素直な彼女の個性は、第二次大戦直前の暗い世相の中でも貴重でした。

⑨　《アドリエンヌ・フィドラン》　1937 年　ゼラチン・シルバー・プリント（ヴィンテージ）
個人蔵　Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

ジュリエット・ブラウナー（1911-91）　1940 年夏にパリを出て、ニューヨークからアメリカ西海岸へ辿り着いたマン・レイは、若い魅力的な女性と出会います。音楽やダンスを身につけ、モデルもしていたジュリエットとは、親子ほどの歳の差があっても、心が通い、ハリウッドに家をもって、やがて結婚します。1951 年には二人でパリへ戻り、最後までともに生きる幸福を選びました。

⑩　《ジュリー（版画集『時を超えた貴婦人たちのバラード』より）》　1971 年　エッチング、アクアティント（多色）、紙　個人蔵　Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

メレット・オッペンハイム（1913-85）　18 歳でパリに出て、カフェ「ドーム」でジャコメッティと出会い、彼のすすめでシュルレアリスムに参加。マン・レイは「完全な女性シュルレアリスト」と呼ばれたメレットの、目をみはるほど美しい写真を撮りました。本展には、オッペンハイム作品（30 年代のシュルレアリスム・オブジェのヴァリエーション）が 11 点出品されます。

⑪　《エロティックにヴェールをまとう（メレット・オッペンハイム）》　1933 年　ゼラチン・シルバー・プリント（後刷）　個人蔵　Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

ニュッシュ・エリュアール（1906-46）　1934 年にポール・エリュアールと結婚して以来、詩人のミューズとなり、マン・レイもまたその優美な容姿に魅せられて、ニュッシュの美しい裸体写真を彼女へのオマージュとしました。

⑫　《ニュッシュ・エリュアール（詩写真集『容易』より）》　1935 年　ゼラチン・シルバー・プリント（マン・レイによる後刷）　個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

宮脇愛子（1929-2014）　日本の彫刻家。阿部展也や斎藤義重らに師事し、瀧口修造の助言でミラノに学んでいたころ、マン・レイと出会い、フェルー通りのアトリエを度々訪れるうちに、1962 年のある日、ポーズをとるように求められました。意図せず《モナリザ》のポーズをとらされていたのです。

⑬　《宮脇愛子の肖像》　1962 年　ゼラチン・シルバー・プリント（レプリカ）　宮脇愛子アトリエ
Courtesy MIYAWAKI AIKO Atelier

●ファッション　1920-30 年代パリのモードを体感

1920-30 年代パリの、芸術界とモード界と社交界をつぶさに記録したマン・レイの「交友録」ともいえるポートレート集とともに、当時の女性たちが身につけた装飾品のほか、手作りアクセサリーや香水瓶も紹介します。
新しい女性にふさわしいモードで一世を風靡したココ・シャネル――マン・レイの撮ったシャネルの肖像は名作中の名作です。

⑭　《ココ・シャネル》　1935 年　ゼラチン・シルバー・プリント（後刷）
個人蔵　Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

ダダ・シュルレアリストの自負もあったマン・レイのこと、それまでのものとはまるでちがう新しい世界がひらかれて、ファッション写真は芸術になりました。名だたるモード誌もこぞってマン・レイの写真を載せ、キキを撮った《黒と白》も 1926 年の『ヴォーグ』誌に掲載されました。

⑮　《黒と白》 1926 年　ゼラチン・シルバー・プリント（後刷）　個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris

●シュルレアリストたちの肖像

1920-30 年代のパリには、世界中から芸術家・文学者たちが集まってきていたので、マン・レイの撮った彼らのポートレートを一堂に会せば、一時代の西欧文化が見渡せてしまうほどです。1924 年からシュルレアリスムに加わったマン・レイは、とくに写真で運動に貢献しています。メンバーのなかでも詩人エリュアールとは親しく、その妻ニュッシュには、モデルとして魅かれました。中心人物のブルトンとも協力しあい、画家ではデュシャンに次いでエルンストとも親しく、彼らの各時代の妻や恋人の写真を友情をもって撮りました。

企画展「マン・レイと女性たち」にあわせ、7 月 15 日より開催するコレクション展では、当館所蔵のシュルレアリスム作品を紹介。当館にはマン・レイと生涯を通じて交友したマックス・エルンストの《ニンフ・エコー》（1936 年、油彩・カンヴァス）が収蔵されており、本作品は、マン・レイ夫妻と合同結婚式を挙げたエルンストの妻ドロテア・タニングが旧蔵していたものです。

①～⑮広報用画像の使用・クレジットについて

※作品キャプションのほか、下記のクレジットの併記をお願いします。
© MAN RAY 2015 TRUST / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021　G2698
※キャプションは、作者名・作品名・制作年・所蔵元を必ず明記してください。難しい場合はご相談ください。
※トリミング加工をしての掲載はできません。

本展監修者よりメッセージ

マリオン・メイエ　Marion Meyer

【プロフィール】
　20 世紀美術史家としてアーティストらと交友。1979 年に画廊を開設し、ダダとシュルレアリスムを専門に扱う。ジュリエットがパリに設立した国際マン・レイ協会を継ぎ、2004 年に会長就任。マン・レイの作品を守り、その光芒を伝えることに尽力している。

【メッセージ】
　マン・レイは女性たちを愛しました。女性たちを写真に撮り、絵やデッサンに描きました。女性たちはその作品のなかでも最高の位置を占めていました。この展覧会は、マン・レイが女性たちとのあいだに保っていた特別の関係――恋愛関係、芸術的・知的な関係、交友関係などに強調を置いています。
　このたび日本のみなさまに、マン・レイの作品における女性たちの位置について、この展覧会を通じて発見していただくことができれば幸いです。本展が日本で大きな歓迎をもって受け入れられますことを祈念申しあげます。

巖谷國士　Kunio Iwaya

【プロフィール】
　仏文学者・美術批評家・明治学院大学名誉教授。1960 年代からシュルレアリスムの研究と実践で知られ、第一人者とされる。著書・訳書多数。写真や講演のほか、展覧会監修の仕事も多く、2004-05 年の「マン・レイ―私は謎だ」展では、マリオン・メイエと協力しあった。

【メッセージ】
　マン・レイは 20 世紀を代表する多才な芸術家ですが、生涯にわたって数多くの女性像をのこしました。写真作品だけを集めても、一時代の女性文化のギャラリーができるほどです。恋人や友人、女性シュルレアリストや女性芸術家から、社交界・ファッション界・映画界の女性まで――マン・レイは彼女たちと対等に接し、偏見のない客観的な目で、それぞれの美しさを定着しました。その女性観には今日にも必要な新しさがあります。
　本展では、そうしたマン・レイ自身と出会えるだけでなく、自由に生きた 20 世紀の女性たちと対話することもできるでしょう。

開催概要

展覧会名　マン・レイと女性たち　MAN RAY and the WOMEN
会場　新潟市美術館　企画展示室
会期　2022 年 7 月 2 日（土）～9 月 25 日（日）**※開場式・内覧会はございません**
開館時間　午前 9 時 30 分～午後 6 時（観覧券の販売は閉館 30 分前まで）
休館日　月曜日、7 月 18 日（月・祝）、8 月 15 日（月）、9 月 19 日（月・祝）は開館
観覧料　一般 1,500 円（1,200 円）、大学生・高校生 1,000 円（800 円）中学生以下無料
＊（　）内は前売（一般のみ）・団体（20 名以上）・リピーター割引料金（本展観覧券の半券提示で本展 2 回目は団体料金に割引）・あっちも割引料金（2022 年度以降の新津美術館の企画展観覧券提示で団体料金に割引）
＊会期中は、本展の観覧券で「コレクション展」もご観覧いただけます
＊障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料（受付でご提示下さい）
前売券　1200 円（一般のみ）発売期間 5 月 21 日（土）～7 月 1 日（金）
〈前売券取扱場所〉ローソンチケット（L コード：33170）、セブンチケット、新潟伊勢丹、新潟市美術館、新潟市新津美術館
主催　新潟市美術館、UX 新潟テレビ 21
お問合せ先　新潟市美術館〔担当：児矢野あゆみ、岡村秀美〕
〒951-8556　新潟市中央区西大畑町 5191-9
TEL:025-223-1622　FAX:025-228-3051　E-mail:museum@city.niigata.lg.jp

関連イベント

★開幕記念講演会「マン・レイとシュルレアリストたち」
日時：2022 年 7 月 3 日（日）午後 2 時～3 時 30 分
講師：巖谷國士 氏（本展監修者）
会場：新潟市美術館　2F　講堂
※要申し込み（先着 80 名）、聴講無料
※一回のご応募につき、2 名まで応募可
申し込み方法：右記の二次元コードより必要事項を記入のうえ申し込み
受付期間：6 月 11 日（土）午前 10 時～6 月 26 日（日）午後 6 時
※講演会終了後にサイン会を予定しています。（聴講者限定）
会期中、展覧会図録『マン・レイと女性たち』（平凡社刊）をミュージアムショップにて販売

★担当学芸員によるスライドトーク
7 月 24 日（日）、8 月 7 日（日）、9 月 11 日（日）　各日午後 2 時～（30 分程度）
会場：新潟市美術館　2F　講堂　※申し込み不要（先着 80 名）、聴講無料

★「ワークショップ　写真の技法を体験してみよう（仮）」
※要申し込み、参加費未定
※詳細が決まり次第、当館 Web サイトにアップします

同時開催 コレクション展Ⅱ「1.シュルレアリスムのひろがり／2.涼を愛でる」7 月 15 日（金）～10 月 23 日（日）

新潟市美術館
Niigata City Art Museum

PRESS　RELEASE

「マン・レイと女性たち」
取材・チケットプレゼント・記事掲載申込書（FAX 専用）

FAX 送信番号：０２５－２２８－３０５１　新潟市美術館宛

◆取材、記事掲載時の作品写真（画像データ）及び読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAX でお申込みください。
◆記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
◆チケットプレゼントの提供は 1 媒体につき 10 組 20 名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限らせて頂きます。
◆読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
◆掲載された媒体は、2 部ご提供ください。

○をおつけください	取材希望　・　チケットプレゼント希望　・　記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 （チケットプレゼント送付先）	〒
メールアドレス（データ送付先）	
媒体名	
取材予定日	月　　日　時頃　・　取材予定なし
取材スタッフ	計　　名（内カメラクルー　　名）
掲載・放映ご予定日	月　　日
チケットプレゼントご希望	組　　枚　＊１媒体につき１０組２０名様まで
通信欄 （ご希望の画像番号等、 お書き込みください）	